国立病院機構熊本医療センター

No.221

くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER　KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸１番５号
TEL（096）353-6501（代）
FAX（096）325-2519

UCLA消化器内科 ジョナサン・カウニッツ教授特別講演がおこなわれました

去る10月５日と７日にUCLA消化器内科ジョナサン・カウニッツ教授の特別講演会が当院で行われました。これは国立病院機構VA指導者研修の一環で行われたものです。５日には、「病棟回診プレゼンのコツ」という講演が行われました。この講演では、若い医師が病棟回診の時、上級医に報告すべき事項を系統的に解説していただきました。米国の医療は日本と比べて症候論が色濃く残っており、優れている点が多いと感じました。７日には、「国際学会における発表のコツ」という講演をいただきました。日本人にとって悩ましい国際学会での発表について、パワーポイントの作り方、発表原稿の作成法、発表本番での注意点、さらには、質疑応答について子細に伝授していただきました。

これから国際舞台に羽ばたいていく若い医師に大きなインパクトを与えたことと思います。このように米国の現役の教授を迎えて生の声を聴くことにより、米国の医療・医学を身近に感じることができました。今後も北米の医学指導者を迎えて、若い医師に対する研修会を開催していきたいと思います。

（臨床研究部長　芳賀克夫）

研修医と記念撮影

カウニッツ教授の講義の様子

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1．良質で安全な医療の提供
2．政策医療の推進
3．医療連携と救急医療の推進
4．教育・研修・臨床研究の推進
5．国際医療協力の推進
6．健全経営

患者様の権利

1．良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2．ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3．病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4．自分の診療記録の開示を求める権利があります
5．セカンド・オピニオンを求める権利があります
6．個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります

VOICE 登録医の声

「池田の村上耳鼻咽喉科です」

村上耳鼻咽喉科
院長　村上（むらかみ） 公輝（ひろき）

池田に耳鼻咽喉科を開業して17年になります。開業当初は40歳台の開業医は京陵地区には少なく重宝がられ、先輩の近隣の先生方から暖かく指導していただき、開業医の基礎を叩き込んでいただきました。勤務医の時には手術症例しか殆ど診察しなかったのですが、開業してからは専門の耳鼻咽喉科疾患の他、いろんな悩みを相談に来る患者さんなど、よろず相談的なものもあり、「かかりつけ専門医」として少しずつ地域に根付きつつあると思っておりますが、いかがでしょうか？また当院ではスギ、ヒノキ花粉の飛散数を毎日測定しており、熊本市の花粉飛散定点観測地となっております。１月から４月までは当院のホームページに毎日花粉数を記載しておりますのでどうぞご利用ください。

熊本医療センターには耳鼻咽喉科はもとより、耳鼻咽喉科の境界領域である救命救急センター、歯科口腔外科、脳神経外科、小児科の各科の先生方に特にお世話になっており、とりわけ救命救急センターには何でも快く引き受けてくださり、本当に感謝いたしております。当院では診察中というより、待合室で具合が悪くなり、熱性痙攣や意識消失発作などで救急搬送されるケースが多いようです。またスギ花粉症や、ダニアレルギーの舌下免疫療法の臨床治験ではその救急搬送先の病院を快く受けてくださり、感謝いたしております。仕事とは別に私の長男、母、家内と３名もいろいろな怪我や事故で当センターに救急搬送されており、一患者の家族として丁寧な経過説明を受け、いつも安心して治療を受けることができました。副院長の高橋先生は長男の怪我の時この救急救命センターで再会しました。高橋先生とは学生時代同じゴルフ部だったため、35年以上前から親しくさせていただいておりましたが、ここで再会するとは何かの縁を感じます。私は今、自分の子供と同じ年代の人と真剣にスポーツで勝負できる競技ゴルフの魅力に取りつかれ、診療と趣味に没頭しております。高橋先生も今はゴルフ休止なさっておられるそうですが、またいつか再開され一緒にラウンドできる日が来ればと願っております。

退任のご挨拶

糖尿病・内分泌内科部長
豊永 哲至

８年半の国立病院機構熊本医療センターでの勤務の間、連携医の先生方には糖尿病・内分泌内科へのご協力を賜り誠に有り難うございました。心よりお礼を申し上げます。お陰さまで、在任中、当科の診療実績は年々増加することが出来ました。

これからも当科は地域医療の中核を担う立場で有り続けたいと思います。更に発展出来ますように今後とも変わらずのご協力を宜しくお願いいたします。

今後は菊池郡市医師会立病院に異動となりますが、更に幅広く地域医療に貢献して行きたいと考えております。これからも医療連携で色々とお世話になることと存じますが、何とぞ宜しくお願いいたします。

職場紹介

入院支援室

入院支援室は、入院が決定した時点で手術や検査の説明、入院時オリエンテーションなどを行うことで、患者様が安全に安心して入院していただけるよう質の高い医療サービスを提供することを目的としています。具体的には、医師の指示のもと、看護師がクリティカルパスの説明や必要な情報を収集しながら、安心して入院できるために必要なサポートは何か患者様と一緒に考えていきます。

平成26年８月に副看護師長１名が配置され、現在は看護師２名の３名体制で入院支援室を運営しています。入院支援室長（統括診療部長）と毎週ミーティングを行い、他職種との連携を検討するとともに、外来受診状況をデータ化し、介入できる対象の診療科を選定中です。

平成27年２月から産婦人科の予定入院から稼働し、医師、薬剤師（服薬状況確認等）、栄養士（栄養指導）、理学療法士、医事・MSW（医療福祉相談等）、そして歯科との連携を強化し、患者さまを中心とした多職種によるサポートを行っています。入院支援室の場所は、地域医療連携室と入院受付９番の間の、旧相談室です。現在は産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科の予定入院患者様を対象としていますが、体制を整えながら他の診療科にも拡大していく予定です。

（入院支援室副看護師長・宇佐美由香利）

入院支援室が介入することで、入院までの流れが替わります。

地域医療連携室横の相談室に開設しました

受付では番号札を取ってお待ち頂いております

入院支援室の看護師　中林順子さん　をご紹介します

中林さんは、病棟の超ベテラン看護師さんとして勤務されていました。患者さんから信頼されるだけでなく、若手看護師からも慕われ、平成27年新年会で「ベテラン頑張ったで賞」を受賞されたことで、院内では知らない人がいない様です。その豊富な経験と功績が認められ（？）、入院支援室に抜擢されたのではないでしょうか。

そんな中林さんのご趣味は、「押し花」で作品を作ることだそうです。きっかけは、20年程前、当時のK副看護部長さんの作品に魅せられ、少しだけ押し花制作を習われたそうです。その後は、先輩の指導を受けながら作品を作っていらっしゃいます。花を見て、その花をどう活かすか悩まれるそうですが、できあがった作品を見ては満足されるそうです。私も作品を見せて頂きましたが、花びらの一枚一枚が丁寧に並べられ、時間が経っても美しい姿には感動しました。

【副看護部長　田﨑ゆみ】

中林さんから一言

作品の一つです

入院支援室の看護師中林です。看護学校から、この二の丸で過ごしております。古いことは覚えていまして、歩く歴史書と自負していますが、新しいことはなかなか入力されず困っております。その私が、14年ぶりに病棟を替わりました。今後はあまり昔を振り返らず、前を向いて一歩一歩　歩いて行きたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

2015 診療科紹介(87)

耳鼻咽喉科

医長
上村　尚樹（うえむら　なおき）
耳鼻咽喉科全般（おもに頭頸部外科）
医学博士、日本耳鼻咽喉科学会専門医
日本耳鼻咽喉科学会補聴器適合判定医師
日本気管食道科学会専門医
ＩＣＤ：インフェクションコントロールドクター

診療実績

表　耳鼻咽喉科手術症例数

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
手術症例数	99名	130名	132名	140名
鼓室・鼓膜形成術	4名	11名	8名	5名
内視鏡下副鼻腔手術	23名	29名	35名	43名
頭頸部手術	31名	37名	39名	40名
（うち唾液腺腫瘍）	（12名）	（16名）	（19名）	（19名）
口蓋扁桃摘出	12名	19名	27名	31名
喉頭微細手術	10名	19名	13名	10名

診療の内容と特色

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域は、命はもちろん、人が人として人間らしく生きることができるための機能を有している器官や臓器を取り扱う重要な診療科です。

一般的に耳鼻咽喉科領域全般を扱いますが、なるだけ手術例を中心に診療をすすめてまいります。耳科領域では慢性中耳炎、中耳真珠腫など、鼻科領域においては特にアレルギー性鼻炎では、後鼻神経切断術、下鼻甲介骨切除術など手術療法も取り入れています。また頭頸部領域では良性疾患を中心に、悪性疾患では放射線化学療法、手術を組み合わせた集学的治療を行います。ただし、再建手術を必要とする悪性疾患は大学病院へ紹介しています。また、難治性鼻出血、めまい、顔面神経麻痺など耳鼻咽喉科救急疾患にも可能な限り対応しています。

患者さんと同じ目線で、わかりやすい説明を心がけています。ご本人やその御家族に絵や図を用い、治療に充分納得していただいた上で治療を行います。

現在当科では常勤医１人で外来・入院・手術（緊急含む）に対応しています。特に外来では手術症例、緊急入院症例もあり、患者さんの説明にあるいは処置に時間を要します。そのため、かかりつけ医の先生で診断・治療にお困りの患者さんに対しましては、一度お近くの耳鼻咽喉科医院の御紹介をいただきますと大変助かります。是非ともよろしくお願い致します。

今後の目標

これまで通り、患者さん、そして開業医の先生方の信頼を得つつ、診療をすすめて参ります。眼科との涙道手術（DCR）、喉頭気管分離術を含め誤嚥性肺炎に対する外科手術も行っており、これからも治療の精度をさらにあげていきます。

頭頸部癌治療をはじめ、当科での入院及び手術症例が確実に増加している中、我々耳鼻咽喉科勤務医は、相変わらず厳しい状況が続いています。

急患もできるだけ対応しておりますが、手術などで対応困難な場合もあり、御迷惑をおかけしておりますが何卒御理解ください。

『地道に精進』　これからもこの言葉を胸にゴールのないマラソンを走り抜く所存です。よろしくお願いいたします。

ご案内

手術などで対応ができない場合もありますので、急患の際は一度電話連絡をいただけると助かります。ご一報下さい。（電話されないで急患を紹介された為対応できず、患者さんに多大な迷惑をかけた事例が多く発生しています。）

外来日：火・金　　８：30～11：00
手術日：月・水　　終日
検査日：　木　　終日
（完全予約制）

第142回救急症例検討会
小倉真治教授の特別講演が行われました

年７回開催しています救急症例検討会では、毎年高名な先生方をお呼びして救急に関したトピックスをご講演いただいています。今年度は、岐阜大学医学部附属病院長・救急災害医学教授　小倉真治先生をお招きし、「救急医療の全体最適化」と題して、平成27年９月28日18時半よりご講演いただきました。

小倉先生は、岐阜大学をご卒業され、地元の香川医科大学に入局されましたが、平成15年に岐阜大学から、岐阜県の救急医療を救って欲しいと請われて44歳の若さで教授に就任されました。

特別講演の様子

ご講演頂いた小倉真治教授

当初よりICTに興味を持たれていた小倉先生は、総務省、通産省、岐阜県の協力の下に、MEDIAという医療情報IDカードを作成・普及させ、GEMITSという病院前、病院内、病院間そして介護まで連携するシステムを構築されました。教授就任12年間で岐阜県をICT関連救急医療の分野で最先端の県に浮上させ、先生の教室も全国有数の医局員数にされました。現在は56歳の若さで副学長も兼任されています。

（副院長　高橋　毅）

平成27年度国立病院機構熊本医療センター
緩和ケア研修会を開催しました

10月11日12日の両日、当院の地域医療研修センターで平成27年度国立病院機構熊本医療センター緩和ケア研修会を開催致しました。当院を含めた地域がん診療連携拠点病院には病院内外での緩和ケアの普及を推進することが求められており、この研修会を年１回行っています。疼痛・呼吸困難・消化器症状などの身体症状やせん妄・気持ちのつらさなど精神症状の緩和・コミュニケーション法・地域連携などがん診療における患者の全人的苦痛への対処を網羅した内容となっています。

緩和ケア研修会会場の様子

緩和ケア研修会参加者

今年も医師16名、他職種11名と例年通り多職種参加での研修会となり、提示された症例に対しそれぞれの立場から治療・ケアの方針を検討しました。

当院では、がんを扱う医師すべてが本研修会を修了する事を目標にしています。またメディカルスタッフも積極的に参加しています。基本的な緩和ケアの考え方を共通言語・共通認識として地域での連携を深めていくべく、近隣の医科歯科の先生方・スタッフの方々にも是非参加いただき、地域のがん患者さんの希望に沿った療養を実現していきたく思います。

（腫瘍内科医長　榮　達智）

第69回国立病院総合医学会が開催されました

10月２日・３日に第69回国立病院総合医学会が札幌市で開催されました。本学会は、全国の国立病院機構病院、国立ハンセン病療養所が一堂に会して、国民により良い医療を提供すべく、議論する貴重な会議です。今年は北海道医療センターの菊池誠志先生が会長を務め、テーマは「地域でつくる明日の医療～まいにちから、まんいちまで～」でした。

特別講演では、北海道がんセンター名誉院長の西尾正道先生が、「放射線の光と影」の講演をされました。日本は世界で一番医療被曝が多い国であるとのご発言は、我々医療者に大きな警鐘を鳴らすご発言であった

ポスター会場の様子

国立病院総合医学会開会式の様子

と感じました。また、原発事故の内部被爆の問題もショッキングな内容でした。先生の科学的根拠に基づき真実を語るという真摯な姿勢に感銘を受けました。この他、シンポジウムやポスター発表も数多く行われ、日常診療に関わる多くの課題が議論されました。当院もさまざまな職種の方が55題の発表を行い、大いに存在感を示すことができました。

（臨床研究部長　芳賀克夫）

ＰＩＣＣ研修が行われました

９月24日（木）に、当院で第３回目のＰＩＣＣ（peripherally inserted central catheter、末梢静脈挿入式中心静脈カテーテル）のハンズオンセミナーが行われました。第１回セミナー（平成26年３月３日）では、院外講師二人をお招きして実施しましたが、以後は当院のCV穿刺指導医のもとで、午後１時から３時までは研修医優先で約40名が、また、午後３時から５時までは一般スタッフ優先に約10名が参加し、エコー穿刺下によるシミュレータ訓練が行われました。PICC専用シミュレータ７台、簡易穿刺モデル（リアルベッセル）７個、血管穿刺専用エコー12機が準備され、和

和気あいあいとした研修の様子

簡易穿刺モデルで訓練する研修医

気あいあいの内に終了しました。

内頸、鎖骨下あるいは大腿静脈穿刺法と比較してPICCに伴う重大な合併症は希であり、今後、臨床医として獲得すべき必須の手技となることでしょう。当院では、「PICCを第一選択に」との大号令の下、年２回の定期セミナーの開催を予定しており、一層のPICC普及を図りたいと思います。次回開催は来年２月末を予定しております。　（教育研修部長　大塚忠弘）

就任のご挨拶

糖尿病・内分泌内科部長
西川（にしかわ） 武志（たけし）

初めまして、西川武志と申します。平成元年に医者になりましたが、ほとんどの時間を熊本大学病院勤務で過ごしており、臨床の前線に出るのはひさしぶりです。糖尿病・代謝内分泌部門の診療に精進いたしますが、しばらくは少しだけ温かい目で見ていただければ幸いです。

座右の銘というほどではありません。また坂本龍馬に心酔しているわけでもありませんが、「たとえ溝の中でも前のめりで死ね」という心構えは見習いたいと思っています。

ご指導いただくことが多々あると思います。よろしくお願いいたします。

泌尿器科医師
銘苅（めかる） 晋吾（しんご）

平成27年10月１日より国立病院機構熊本医療センター泌尿器科で勤務させて頂くこととなりました、医師６年目の銘苅（めかる）と申します。平成23年度にも１年間レジデントとして泌尿器科で勉強させていただき、今回１年６か月ぶりに再び職員として帰ってくることができました。以前働いていたこともあり、すごく忙しい病院であることは嫌というほど承知しておりますが、その分貴重な症例も多く経験させていただくことができるので、新たな気持ちで日々励んでいきたいと思います。

まだまだ医師として未熟ではありますが、これまで学んできたことを生かしつつ、さらに成長できるよう頑張っていきますので、どうぞよろしくお願い致します。

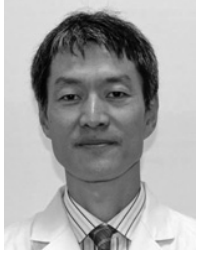
歯科口腔外科医師
内藤（ないとう） 久貴（ひさき）

初めまして。10月より熊本医療センター歯科口腔外科にて診療しております、内藤　久貴と申します。

これまでは熊本大学病院歯科口腔外科にて３年半、その後集中治療部にて１年間診療を行っておりました。新たな環境で、自分自身戸惑う場面も多いですが、紹介患者様が熊本医療センター（歯科口腔外科）を受診してよかったと思っていただけるよう、真摯に診療に取り組みますので、よろしくお願いいたします。

医学シリーズ No.222　腫瘍内科（No.１）

最近のトピックス
緩和ケアチーム



腫瘍内科医長
礒部 博隆

医療には、治癒を促す治療とそれを支えるためのケアが必要です。安楽に治療を受けるためには症状緩和ケアが不可欠です。医療者はとかく治療にのみ目を向けがちで、一方医療を受ける方には往々にして医療者への遠慮があり、苦しんでいる症状が置き去りにされ、我慢を強いられることがしばしば起こります。症状緩和ケアは症状のある方すべてになされるものであり、病状が進んでいるか否かは関係ありません。すべての入院者さんが安楽に過ごすことができることが当たり前の医療の姿だと思いますが、とは言っても中には症状コントロールが困難な方もおられます。また精神的なきつさや不安、経済面や家族環境の気がかりなど、様々な問題点を抱えておられます。このような状況では、担当医や病棟看護師だけで対応することは困難であり、いろいろな職種の専門家と一緒に行う診療体制が必要です。

熊本医療センターでは多職種による緩和ケアチームを結成して、入院者さんの症状ケアを行い、様々な問題に対応できるようなシステムを構築しております。現時点ではがんの方を対象に、多人数で関わった方がいいと考えられる入院者さんを病棟看護師や専門看護師が拾い上げ、チームとして対応しております。専従者が直接訪問して話をお聞きし、チーム回診時に情報を共有し、必要な時にはチーム全員で本人を訪ね、その方の問題点を病棟看護師や担当医と話し合います。このようにして入院者さんを数人でバックアップしながら一緒に診る体制をとることで、偏った医療になることを回避し、入院者さんが良質な医療を受けることができるように心がけています。

緩和ケアチーム

緩和ケアチームは、多職種（腫瘍内科医、精神科医、放射線治療科医、麻酔科医、がん看護専門・認定看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、臨床心理士、ソシアルワーカー・事務職）で編成され、週に一度回診を行い、一人の方を多方面からの視点でサポートします。また連携機関の医師、看護師、パストラルケアワーカーやケアマネージャーらにご参加いただきアドバイスをもらっています。入院者さんがより充実した診療を受けられるように文殊の知恵を出し合っています。

昨年度の活動状況は、総数が53名で、診療科は泌尿器科、外科、婦人科、耳鼻咽喉科、消化器内科、血液内科、呼吸器内科、歯科、脳神経外科などと多岐に渡っておりました。

外来通院者さんには緩和ケア外来を開設し、専従医療者がチームを組んで対応しております。

当院ではこのような取り組みを行うことによって、受診者の方が主体性を持って医療を受ける診療環境を整備しております。これからも入院・外来者さんの要望にお応えしながら、もっと多くの方が安心して医療を受けることができるように、緩和ケアチーム活動を行っていきたいと考えております。

緩和ケアチーム回診の様子

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ98回

国立病院臨床検査技師協会九州支部会第１回微生物検査アンケート解析報告

臨床検査科　川上洋子

【目的】

臨床微生物検査は感染症診断・治療のために起因菌検索・抗菌薬感受性情報を提供する検査です。検査方法や報告で施設および技師間差が生じないように、国立病院機構臨床検査技師協会九州支部会微生物研究班では、各施設の細菌検査の現状を把握することを目的にアンケートを実施しました。

【対象とアンケート内容】

九州ブロック内国立病院機構病院ならびに国立療養所32施設を対象とし、アンケート用紙を配布しました。アンケート内容は①微生物検査実施の有無、②微生物検査業務内容、③内部精度管理、⑤病原体保管状況としました。

【結果】

32施設中31施設（96.9%）から回答を得ました。

①微生物検査の実施：院内実施、外部委託と併用している施設は28施設（90.3%）、すべて外部委託している施設は１施設（3.2%）でした。

②微生物検査業務内容：詳細を表１に示します。グラム染色を院内で実施している施設は27施設（87.1%）、抗酸菌染色は28施設（90.3%）で、塗抹検査は多くの施設が院内実施でした。抗酸菌・真菌の同定・感受性検査は多くの施設が外部委託でした。遺伝子検査を院内で実施している施設は７施設（22.6%）で、実施されている遺伝子検査項目は抗酸菌関連が65%を占めていました（表２）。採用されている施設が多かった迅速検査項目は、インフルエンザ抗原検査31施設（100%）、CDトキシン検査29施設（93.5%）、ノロウイルス28施設（90.3%）でした（表３）。

③内部精度管理：条件付きで実施している施設も含めて定期的に実施している施設は５施設（16.1%）でした。５施設中４施設が、標準菌株を用いて同定・感受性検査の精度管理を実施していました。

④病原体保管状況：３種病原体登録施設は結核専門機関２施設のみでした。また、４種病原体取り扱い基準を設けている施設は11施設（35.5%）でした。一般細菌は全施設冷凍保存でしたが、抗酸菌は冷蔵、室温、孵卵器と施設ごとに保存条件が異なっていました。どの施設も施錠ができる保管庫を使用して保管していました。

【まとめ】

内部精度管理を定期的に実施している施設が少なく、改善する必要があると思われました。４種病原体の取り扱い基準を設定していない施設が19施設見られました。感染症法において４種病原体の取り扱いは基準の遵守となっています。菌株保管、廃棄物処理方法などの菌株取扱い方法の設定と共に、自施設の設備（安全キャビネット、オートクレーブなど）などを病原体取扱い方法としてマニュアルの一部に記載すべきと思われます。今後は耐性機序の明確な現在問題となっている耐性菌や感染症の主要な菌を用いた外部精度管理を実施する予定です。

表１　院内実施・外部委託と併用している施設数（n＝31施設）

	塗抹検査	培養検査	同定検査	感受性検査
一般細菌	27施設（87.1%）	25施設（80.6%）	26施設（83.9%）	25施設（80.6%）
抗酸菌	28施設（90.3%）	24施設（77.4%）	10施設（32.3%）	10施設（32.3%）
真菌	---	23施設（74.2%）	16施設（51.6%）	７施設（22.6%）

表２　院内実施している遺伝子検査項目内訳

抗酸菌PCR	６施設
LAMP法	１施設
レプラPCR	１施設
RFP耐性遺伝子検査	１施設
マイコプラズマ	１施設
レジオネラ	１施設
カリニPCR	１施設
CMV	１施設
HIV	１施設

表３　迅速抗原検査を院内で実施している施設数（n＝31施設）

	迅速検査項目	施設数
呼吸器	インフルエンザ	31施設（100%）
	RSウイルス	20施設（64.5%）
	アデノウイルス	23施設（74.2%）
	A群溶連菌	17施設（54.8%）
尿中抗原	肺炎球菌	25施設（80.6%）
	レジオネラ	25施設（80.6%）
消化器	CDトキシン	29施設（93.5%）
	ノロウイルス	24施設（77.4%）
	アデノウイルス	14施設（45.2%）
	ロタウイルス	20施設（64.5%）

研修医レポート

臨床研修医
西山（にしやま） 景子（けいこ）

こんにちは。研修医１年目の西山景子と申します。北里大学を卒業して、４月から国立病院機構熊本医療センターで初期臨床研修をさせて頂いています。最初は糖尿病・内分泌内科からスタートさせていただき、その後外科、消化器内科、そして現在は麻酔科で研修させていただいています。４月の頃は、電子カルテの使い方や薬の処方の仕方など基本的なことを覚えることに精一杯で、指導医の先生をはじめ研修２年目の先生、看護師さんなどたくさんのスタッフの方々にご迷惑をおかけし、その度に優しく丁寧なご指導を頂きました。あれから半年が経ち、まだまだ未熟者がゆえにみなさまにご迷惑をおかけすることは多々ありますが、ようやく医療の楽しさを感じる余裕が少しばかり出てきたように思います。内科や外科、麻酔科などそれぞれ異なった視点、立場から患者さんと接するため学ぶこともそれぞれ違い、毎日新しいことを学ぶ楽しさを感じています。現在は麻酔科で毎日、基本的手技や麻酔管理の方法などを勉強しています。各科で多少仕事内容は異なるものの、１人１人の患者さんと向き合い、良い方向に向かう手助けをするという点ではどの科も共通しており、誰かの人生に携われる仕事に就けたことに改めて喜びを感じています。まだまだ医師として始まったばかりで周りの先生方や医療スタッフの方々にはご迷惑をおかけすることばかりですが、１日でも早く一人前の医師になって誰かの役にたてる人間になりたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

臨床研修医
日隈（ひのくま） 大徳（ひろのり）

こんにちは。研修医１年目の日隈大徳と申します。熊本大学を卒業し、４月より熊本医療センターで初期研修をさせていただいております。既に半年が経ちましたが、未だ日々の診療や業務についていくことがやっとで、スタッフの皆さまにもご迷惑をかけてしまって申し訳なく思っています。あと半年で今の２年目の先生方のようになれるか少し焦りもありますが、指導医の先生をはじめとして熱心なご指導のもと、日進月歩で少しずつですが力がついているように感じています。

８月から９月にかけて救急部で研修をさせていただきました。救命部は救急外来での初期対応から病棟の患者さんの治療、全身管理まで幅広く学ばせていただきました。救急外来では短い時間で重要な情報集める力、患者さんのバイタルの状態を把握する力を鍛えることができたと思います。診療科を問わず様々な病態の患者さんを診ることで幅広い経験を積むことができました。病棟では患者さんそれぞれの問題点を挙げ、対策をとりながら全身状態の安定化のために治療しました。高齢者や合併症のある患者さんも多く、治療方法に難渋する場合や、誤嚥性肺炎など新たな合併症を発症してしまう場合がありましたが、それらに対処する方法や発症のリスクを下げる方法が身についたと思います。

ひとつひとつ症例を経験する度に治療法や手技について学ぶことができ、疾患に対する理解も深まっているように感じています。今後も初心を忘れず、患者さん１人ひとりと向き合っていきたいです。これからもご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

研修のご案内

第56回　症状・疾患別シリーズ（会員制）
［日本医師会生涯教育講座2.5単位認定］

日時▶平成27年11月７日(土)15：00～17：30
場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長 八代更生病院　理事長　宮本憲司朗　先生

演題：「認知症の診断と治療」

1．症例呈示　国立病院機構熊本医療センター精神科医長　山下建昭
2．認知症の基礎知識　国立病院機構菊池病院　院長　木村武実　先生
3．認知症のメンタルケア　城南病院　認知症診療顧問　高松淳一　先生

この講座は有料で、年間10回を１シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、１回だけの参加を希望される場合は１回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局
TEL 096-353-6501（代表）内線2630　096-353-3515（直通）FAX 096-352-5025（直通）

第202回　月　曜　会（無料）
（内科症例検討会）
［日本医師会生涯教育講座1.5単位認定］

日時▶平成27年11月16日(月)19：00～20：30
場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1．内科基礎講座　診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います。
「第１症例　スタチン内服中のＣＫ上昇」　国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長　西川武志
「第２症例　関節リウマチ治療中の両肺のすりガラス影」
国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長　名村　亮
2．ミニレクチャー「白血病の最近の知見　治療の実際」
国立病院機構熊本医療センター血液内科　平野太一

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター統括診療部長　清川 哲志　TEL：096-353-6501(代表) FAX：096-325-2519

第170回　三　木　会（無料）
（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）
［日本医師会生涯教育講座1.5単位認定］
［日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜２群＞0.5単位認定］

日時▶平成27年11月19日(木)19：00～20：45
場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室２

1．「全身倦怠感、食欲不振、低Na血症、低血糖を主訴とした60代女性」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病内分泌内科
八木喜崇、川副健太郎、白谷美和、大津可絵、坂本和香奈、松山利奈、橋本章子、小野恵子、豊永哲至、高橋毅、西川武志
2．「足腫瘍を伴う高度の糖尿病合併症を伴った２型糖尿病の一例」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病内分泌内科
川副健太郎、八木喜崇、白谷美和、大津可絵、坂本和香奈、松山利奈、橋本章子、小野恵子、豊永哲至、高橋毅、西川武志

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長　西川 武志 TEL 096-353-6501（代表）内線5441

第143回　救急症例検討会

日時▶平成27年11月25日(水)18：30～20：00
場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ「航空医療（兼熊本県ヘリ救急運行調整委員会症例検討部会）」
国立病院機構熊本医療センター救命救急集中治療部医長　原田正公

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等全職種が参加できます。
多数のご参加を歓迎します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線2630　096-353-3515（直通）

2015年 研修日程表 11月

国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

11月	研修センターホール	研　修　室
1日 (日)	9：30～14：10　第８回 熊本PEECコース	
2日 (月)		
3日 (火)		
4日 (水)		
5日 (木)	7：30～８：15　二の丸モーニングセミナー 「精神科の救急疾患」 国立病院機構熊本医療センター精神科部長　渡邉健次郎	
6日 (金)		
7日 (土)	**15：00～17：30　第56回 症状・疾患別シリーズ** **「認知症の診断と治療」** **［日本医師会生涯教育講座2.5単位認定］** **座長 八代更生病院 理事長　宮本憲司朗** **１．症例呈示** **国立病院機構熊本医療センター精神科医長　山下建昭** **２．認知症の基礎知識** **国立病院機構菊池病院 院長　木村武実** **３．認知症のメンタルケア** **城南病院 認知症診療顧問　高松淳一**	
8日 (日)		
9日 (月)		
10日 (火)		
11日 (水)	13：00～17：15　平成27年度 院内感染対策研修会（国立病院機構）（第１日目） **18：00～19：30　第95回 国立病院機構熊本医療センター** **クリティカルパス研究会（公開）**	
12日 (木)	7：30～８：15　二の丸モーニングセミナー 「心臓血管外科の救急疾患～見逃してはならないポイント～」 熊本大学大学院生命科学研究部心臓血管外科学教授　福井寿啓 9：00～17：15　平成27年度 院内感染対策研修会（国立病院機構）（第２日目） **19：30～21：30　歯科領域における救急蘇生法講座** **講師　国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長　瀧　賢一郎　ほか**	
13日 (金)	9：00～16：45　平成27年度 院内感染対策研修会（国立病院機構）（第３日目）	
14日 (土)	14：00～16：00　第265回 熊本県滅菌消毒法講座 「感染対策の最近の話題」	
15日 (日)		
16日 (月)	**19：00～20：30　第202回 月曜会（内科症例検討会）** **［日本医師会生涯教育講座1.5単位認定］**	
17日 (火)	19：30～20：30　第43回 熊本摂食・嚥下リハビリテーション研究会 「食形態と嚥下 ～嚥下内視鏡の実演も交えて～」 熊本リハビリテーション病院リハビリテーション科医師　齋藤智子	
18日 (水)	14：00～15：00　第32回 市民公開講座 「頭痛について」 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長　田北智裕	
19日 (木)	7：30～８：15　二の丸モーニングセミナー 「眼科の救急疾患」 国立病院機構熊本医療センター眼科部長　近藤晶子	**19：00～20：45　第170回 三木会（研２）** **（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）** **［日本医師会生涯教育講座1.5単位認定］** **［日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜２群＞0.5単位認定］**
20日 (金)		15：30～16：45　肝臓病教室（研２） 「B型・C型肝炎の抗ウイルス治療」
21日 (土)		
22日 (日)		
23日 (月)		
24日 (火)	18：30～20：30　血液研究班月例会	19：00～21：00　小児科火曜会（研１）
25日 (水)	**18：30～20：00　第143回 救急症例検討会** **「航空医療（兼熊本県ヘリ救急運行調整委員会症例検討部会）」**	
26日 (木)	7：30～８：15　二の丸モーニングセミナー 「外傷の初期治療」 国立病院機構熊本医療センター外科医長　水元孝郎 18：30～20：00　熊本県臨床細胞学会 ＜細胞診月例会・症例検討会＞	19：00～21：00　熊本脳神経疾患懇話会（研２）
27日 (金)		
28日 (土)		
29日 (日)		
30日 (月)		

研１～３　２階研修室１～３

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ（http://www.nho-kumamoto.jp/）をご参照ください。

問い合わせ先　〒860-0008　熊本市中央区二の丸１番５号　国立病院機構熊本医療センター２階　地域医療研修センター TEL 096-353-6501（代）内線2630　096-353-3515（直通）